

令和6年度 西部クリーンセンターの放射性物質濃度等の測定結果

◆ 敷地境界における空間放射線量（単位： μ ^{マイクロシーベルト} S v /時）

S v（シーベルト）：人が受ける被ばく線量の単位（人が受ける放射線の量を表す）

μ （マイクロ）： 10^{-6} （100万分の1）

実施回	測定日	東側	西側	南側	北側	バック グラウンド
第1回目	令和6年4月10日	0.07	0.06	0.06	0.07	0.05
第2回目	令和6年5月8日	0.07	0.05	0.06	0.07	0.06
第3回目	令和6年6月12日	0.07	0.05	0.06	0.06	0.05
第4回目	令和6年7月10日	0.06	0.06	0.06	0.07	0.06
第5回目	令和6年8月14日	0.07	0.05	0.06	0.07	0.06
第6回目	令和6年9月11日	0.07	0.05	0.06	0.06	0.06
第7回目	令和6年10月9日	0.08	0.06	0.06	0.07	0.06
第8回目						
第9回目						
第10回目						
第11回目						
第12回目						

※ 1か月に1回の頻度で測定を実施。

※ 地表面から約1mの高さで測定を実施。

■ 焼却灰等の放射性物質ごとの濃度（単位：Bq^{ベクレル} / kg）

Bq（ベクレル）：放射能の量を表す単位（放射線が出ている量を表す）

実施回 ^{※1}	採取日	検体	放射性セシウム 134	放射性セシウム 137	放射性セシウム の合計
第1回目	令和6年5月7日	飛灰 ^{※2 ※3}	不検出	53	53
第2回目		飛灰 ^{※2 ※3}			
		焼却残渣 ^{※4}			
		炉砂 ^{※5}			

※1 埋立て先である地元の自治体等の要請に応じた頻度で測定を実施。

※2 飛灰とは、ろ過集じん器などで捕集した排ガスに含まれているダスト（ばいじん）をいう。

※3 重金属の溶出を防ぐための薬剤処理を行っていない状態の検体を採取。

※4 焼却残渣とは、燃やしたごみに含まれる未燃分（主に小石や金属類）をいう。

※5 炉砂とは、流動床式焼却炉においてごみを燃やすために用いる砂のことをいう。